

事務事業名		在京佐野ふるさと会支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	5 市民みんなで作る夢のあるまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	総合政策部	担当課	政策調整課	
	政策	1 人権を尊重した市民参加によるまちづくり						担当係	広報広聴係	担当課長名	大木 聡		
	施策	3 市政情報の共有と広聴活動の充実						新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	1 広報活動の充実						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名	市単独事業・国県補助事業	市単独事業					
	758	一般	2	1	2	佐野市PR事業	任意的事業・義務的事業	任意的事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H17年度～		根拠法令 条例等	佐野市在京佐野ふるさと会 交付金交付要綱	実施方法	直営					
							事業分類	広報・広聴・啓発事業					
							リーディングプロジェクト	該当なし					
							市長マニフェスト	該当なし					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)				平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
・在京佐野ふるさと会に交付金を交付している。この交付金は、この団体の運営費補助としての正確のものである。 *在京佐野ふるさと会とは、東京都及びその周辺に在住する佐野市出身者や佐野市にゆかりのある者が、会員相互の親睦を図るとともに、ふるさと佐野市と連携を保ち、お互いの友好親善とふるさとの発展に寄与することを目的として設立した団体。				活動内容 (市の活動) ・在京佐野ふるさと会の事務局を所管。在京佐野ふるさと会に交付金を支出するための手続(申請書の提出、交付決定、実績報告、交付金交付)を行う。 (在京佐野ふるさと会の活動) ・定期的に情報交換を行い、佐野市に有益な情報の提供や助言を行う。 ・平成26年度は、会員と市内商工業者との交流を図り、市のPR及び情報交換促進を目的に、さの秀郷まつりに合わせて「祭り見学会」、「市内商工業者との交流会」を実施した。							
活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)				
交付対象団体数		団体	1	1							
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
・在京佐野ふるさと会				対象指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
交付対象団体数		団体	1	1							
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
目的 ・在京佐野ふるさと会の円滑な運営と財政の健全化を図る。				成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
事業執行率(団体の事業計画に対して計画どおりに事業が行えたか)		%	100.0	100.0							
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)											
市政に関心を持ってもらう。				上位成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
市ホームページ閲覧件数		件	626,200	606,517							

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
		国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	185	185	185	0	0	
		事業費計(A)	千円	185	185	185	0	0	
事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
		交付金	185	交付金	185	交付金	185		
人件費	人	正規職員従事人数		1	1	1	1	1	
	時間	のべ業務時間		20	20	20	20	20	
	千円	人件費計(B)		78	79	79	79	79	
	千円	トータルコスト(A)+(B)		263	264	264	79	79	

事務事業名	在京佐野ふるさと会支援事業	担当部	総合政策部	担当課	政策調整課	担当係	広報広聴係
-------	---------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成元年、当時の毛塚市長が東京及びその周辺で活躍している方々との連携を図る目的で設立。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	会員の高齢化がすすんでいる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	・会員からは、新規会員の開拓要望 ・補助金検討委員会からは、市経済界などとの交流など、積極的な活動を展開するよう要望があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	継続した加入案内を行うことで、平成26年度は、5人(女性1名)の新規加入者を得られた。佐女校OB会である八千代会さんの協力を仰ぎ、女性会員の加入も継続して得られた。今後も、市内高等学校OB会への働きかけや、加入者からの情報を下に、加入者促進に努め、首都圏へ佐野市をPRするための下地作りを行っていく。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	貴重な情報の提供や助言が、市の発展に寄与する。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	会員所在が広範囲であるため。かつ、会員からの貴重な情報や、助言・提言などを市政に反映させていくため、市で行うことが妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	この事務事業は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	在京佐野ふるさと会については、引き続き支援が必要であり、佐野市のPR促進に貢献できるよう、在京佐野ふるさと会の事業展開を検討していく。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	・補助金等交付検討委員会の提言により、今後市内の他団体と連携し、戦略をもって積極的に活動していかなければならないため、事業費の削減余地はない。 ・設立の経緯から市が事務局を担う必要があり、人件費の削減は見込めない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	総会時に参加費を徴収しており、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	在京佐野ふるさと会の運営には引き続き支援が必要であり、廃止・休止することはできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																				
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 引き続き、市内の他団体との連携等、在京佐野ふるさと会の事業展開を実施していく必要がある。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上		○		維持			×	低下		×	×	在京佐野ふるさと会会員は、東京及びその周辺で活躍されている方であるため、市内団体との連携交流には距離的課題が存在している。このため、市バス等を活用した交通手段に関する支援策など配慮が必要である。
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
向上		○																				
維持			×																			
低下		×	×																			